

第6回 安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和7年5月19日（月）

午後5時30分から午後7時

会場：穂高公民館 講堂

次 第

1 開 会

2 県教育委員会あいさつ

3 新構成員自己紹介

4 座長選出

5 会議事項

（1） 第5回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ

（2） これまでの懇話会の開催状況と今後の予定

（3） 新校の学びのイメージに係る意見交換

①産業界・地域の方々からの提言 安曇野市商工会

②これまでの懇話会の意見集約

③グループワークによる意見交換

6 その他

次回の予定

【日時】 令和7年7月頃（予定）

【場所】 （調整中）

【内容】 全国の先進事例の講演

学びのイメージ策定に向けた意見交換

7 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会構成員名簿

令和7年4月以降

○：新規

（敬称略）

	区分	氏名	所属等	役職等
1	自治体	中山 栄樹	安曇野市	副市長
2		宮澤 達	池田町	副町長
3		橋渡 勝也	安曇野市教育委員会	教育長
4		山崎 晃	池田町教育委員会	教育長
5	産業界	高橋 秀生	安曇野市商工会	会長
6		栗原 裕	J A あづみ	総務開発事業部長
7		宮崎 鉄雄	池田町商工会	事務局長
8		傳刀 勇	J A 大北	総合企画管理課長
9	学識経験者	○村松 浩幸	信州大学教育学部	教授
10	地域	斉藤 岳雄	有限会社 斉藤農園	専務取締役
11		石井 克則	黒田精工株式会社	専務取締役・工場長
12		深澤 大輔	株式会社 大王（大王わさび農場）	代表取締役
13		○斎藤 政一郎	松本地域振興局	局長
14		○柳原 健	北アルプス地域振興局	局長
15	同窓会	笠井 明	南安曇農業高等学校同窓会	同窓会長
16		山崎 完好	穂高商業高等学校同窓会	同窓会長
17		宮澤 敏文	池田工業高等学校同窓会	同窓会長
18	P T A	○北川 昭一	南安曇農業高等学校 P T A	P T A 会長
19		○鷺澤 恒夫	穂高商業高等学校 P T A	P T A 会長
20		○小山 恵梨香	池田工業高等学校 P T A	P T A 会長
21		小松 公平	安曇野市 P T A 連合会	顧問
22		○小澤 誠一	大北 P T A 連合会	会長
23	小中学校等関係者	○臼井 慎詞	安曇野市校長会（豊科北小校長）	会長
24		○工藤 美恵	北安曇校長会（池田小学校長）	会長
25		山岡 勝則	安曇養護学校	校長
26	再編対象校	蜜澤 健人	南安曇農業高等学校	生徒会長
27		大吉原 麗	南安曇農業高等学校	生徒会副会長
28		○井出 敦	南安曇農業高等学校	校長
29		今溝 秀雄	南安曇農業高等学校	教職員
30		山口 日菜子	穂高商業高等学校	生徒会長
31		小林 優夏	穂高商業高等学校	生徒会副会長
32		三宅 浩一	穂高商業高等学校	校長
33		川上 忠志	穂高商業高等学校	教職員
34		深沢 穂積	池田工業高等学校	生徒会長
35		竹内 海翔	池田工業高等学校	生徒会副会長
36		○藤田 洋子	池田工業高等学校	校長
37		○西山 浩介	池田工業高等学校	教職員

【事務局】

学校名	氏 名（役職等）
南安曇農業高等学校	（教頭） 本山 義治
	（教職員） 今溝 秀雄、中田 貴子、矢野 良、山崎 健悟
穂高商業高等学校	（教頭） 橋本 徹
	（教職員） 浅見 大輔、有賀 詩織、川上 忠志、酒井 慎也
池田工業高等学校	（教頭） 山口 秀樹
	（教職員） 佐藤 仁、西山 浩介、松井 一陽、矢原 和義

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	○柳沢 勝美	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	原 周一郎	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	○貝野 宗司	高校教育課 高校再編推進室	主事
	○宮沢 悠太	学びの改革支援課 高校教育指導係	指導主事

第5回 安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ（案）

日 時	令和 7 年 1 月 20 日（月）午後 5 時 30 分から午後 7 時 10 分		
場 所	穂高公民館 講堂		
出 席 （敬称略）	橋渡 勝也、山崎 晃、栗原 裕、宮崎 鉄雄、傳刀 勇、斉藤 岳雄、石井 克則、笠井 明、山崎 完好、宮澤 敏文、岩渕かつ子、小岩 未佳、大出 敏弘、小松 公平、宗川 尚美、赤羽 文恵、中原 敏、山岡 勝則、密澤 健人、大吉原 麗、北原 邦俊、今溝 秀雄、山口日菜子、小林 優夏、三宅 浩一、川上 忠志、深澤 穂積、竹内 海翔、武居 正憲、岩原 昌孝（以上 30 名）		
欠 席 （敬称略）	中山 栄樹、宮澤 達、高橋 秀生、宮崎 樹夫、深澤 大輔、宮島 克夫、斎藤政一郎（以上 7 名）	傍聴	20 名、報道 4 社、オンライン 3 名
事務局	南安曇農業高校	本山教頭、川上教諭、中田教諭、加藤教諭、水谷教諭	
	穂高商業高校	橋本教頭、浅見教諭、有賀教諭、酒井教諭	
	池田工業高校	山口教頭、伊藤教諭、犬飼教諭、勝野教諭	
	県教育委員会	佐野高校再編推進室長、井出主幹指導主事、高橋主任指導主事、原（周）主任指導主事、樽沼指導主事	
会議事項	（１）第 4 回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ （２）これまでに出了た意見のまとめ （３）新校の学びのイメージに係る意見交換		
当日資料	・次第、開催要綱、構成員名簿、第 4 回懇話会まとめ、構成員アンケートまとめ、学びのイメージ検討手順、これまでに出了た意見のまとめ ・会場配席図、アンケート用紙(両面)		

主な内容（・意見等）

座長欠席に伴い、座長代理に山崎池田町教育長を選出

○会議事項

(1) 第4回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ

第4回懇話会まとめについて事務局から説明。【質問、意見なし】

(2) これまでに出了た意見のまとめ

「旧第11通学区高等学校教育懇話会」、「大北地域における高等学校の将来を考える協議会」からの意見・要望及び、第4回の懇話会までに出了た意見を「育てたい生徒像」、「目指す学校像」、「学び・地域連携」の3つの項目に分類した資料について事務局から説明。【質問、意見なし】

(3) 新校の学びのイメージに係る意見交換

ア 「10年後の産業のあり方を見据えたこれからの学校像、育てたい生徒像」について産業界・地域を代表する構成員からの提言

＜池田町商工会 宮崎＞

- ・地元事業者は人手不足に悩んでおり、外国人労働者に頼る状況。
- ・20年続く池田工業高校のデュアルシステムは、行政・学校・経済団体が一体となって地域の即戦力となる高校生を育てていこうと始まった取組。
- ・現在、デュアルシステムは工業だけでなく、農業や福祉分野にも協力いただいている。事業所を知る良い機会となっており、デュアルシステムの実習先に就職する生徒もいる。
- ・デュアルシステムは新校にも引き継ぎ、地域との繋がりを強化していくことを提案する。
- ・教員の負担軽減のためにも、県教委が地域連携コーディネーターを雇用し、デュアルシステムの基盤づくりをしてほしい。また、県教委は協力事業所への助成を検討してほしい。
- ・以前から専攻科の設置を県教委に要望しているが、実現に至っていない。新校に設置すれば、2年間の専門教育とインターンシップを通じて、地域事業所との結びつきを強くすることができる。卒業後の出口保証を地域事業者ができると期待している。専攻科の設置を検討してほしい。
- ・人口減少対策としても、新校が地域の魅力を再発見して若者が地域に戻ってくるような学校になることを期待している。

イ 意見交換

【育てたい生徒像】

- ・生徒には何か1つ秀でたものを身につけてほしい。
- ・地域課題を地域連携で研究し、失敗や挫折も学びとして経験しながら解決ができる生徒。
- ・地域貢献を志す生徒。

【目指す学校像】

- ・新校の魅力は授業、部活動、学校行事、資格の4つがそろふことと考える。全国募集ができるような魅力や大学などとの連携も考えながら、農工商だけではなくダイナミックな発想で学科を考えたい。

- ・学校は多くの生徒が集まり、ディスカッションなどをするためにあると考える。農工商の3校がただ1つになっただけでは面白くない。職業高校という過去のくくりを若い人に押し付けず、職業科のイメージを変えた方がよい。
- ・生徒がやりたいことを支援し、その意欲を伸ばせるような学校になってほしい。
- ・学んだことをどのように活かすかを経験できたらもっと楽しくなる。自分の成長を実感しながら学んでいく学校がよい。
- ・新校はどの学科でも別の学科の内容が学べるような相互に乗り入れができる学校になってほしい。
- ・地域の企業や団体と一緒に学び、一緒に実習するような機会を担保して、お互いがWin-Winになる学校を目指せるとよい。そこに参加した生徒たちがやがて地域に貢献していく人材に繋がっていく。
- ・各校とも現状に合った教育を進めているので、このまま時代の変化に沿って変わっていったほしい。さらに、スポーツや学習で、進学できるような分野も取り入れてほしい。
- ・穂高商業は地域に根づいた高校に特化した学校を目指している。このような教育をすることで、進学した後に戻ってきてくれる可能性が高い。新校は魅力あるまちづくりをうたいながら、生徒募集をすることで、安曇野を元気あふれる地域に変えていけると考える。
- ・生徒たちを大きな集団の中で一緒に学ばせたい。農工商の生徒と一緒にできる授業はある。小規模校になると教員が減り、専門科目を学べなくなる可能性がある。また、生徒会活動も活気がなくなり、クラブ指導者もいなくなる。クラブ活動は中学生にとって学校選びの重要な選択肢になっているが、現在、各校では合同チームを組まざるを得ない状況が多い。専門性の異なる生徒が、授業や生徒会活動、クラブ活動などで一緒に活動できる学校にしたい。
- ・池田工業は女子生徒が少なく、男女比の均衡が取れていない印象を受ける。学科を考える上で男女比が偏らない学校にしたい。
- ・専攻科ができればカリキュラムによっては大学編入させることもできるし、専攻科から推薦入学に挑戦することもできる。また、公務員志望の学生の受け皿にもなる。
- ・農業自営者の育成は3年間ではできない。上級学校で資格を取ったり、経営を学んだりしなければならない。専攻科で農業専門教育等ができるとなれば、人口減少対策として、都会からも呼び込むことができる。
- ・専攻科の議論は、最初に高校3年間でやるべき学習部分を協議した上で順を追って進めていくべき。
- ・池田工業の定時制について、専用の校舎があれば昼間定時制で十分であると考え。昼間定時制であれば、家族で夕食を取ることができる。また、保護者の負担軽減に繋がる。交通の便が悪いと保護者が送迎しなければならないため、保護者負担が大きい。現在、3年間で卒業できるように松本筑摩高校通信制の授業を受けることで修得単位を認めている。例えば、全日制の授業を受けて単位修得できるようにすれば自校で完結できる。また、教員人事の困難解消にもなる。

【学び・地域連携】

- ・昔は、ものづくりや土いじり、お店屋さんごっこなどの経験をとおして、自分のやりたい方向性や夢を基に学校を選んでいたが、今の子供たちはそのような体験が少なくなっている。専門高校の魅力を伝えるためにも、地域の企業に協力してもらいながら、小中学生と交流することが大切。
- ・高校入学時点で学科を決めることは生徒にとって大変難しい。入学してから学科間を行き来できるような柔軟なシステムを導入しても面白い。
- ・クラスは農工商一緒に組んでほしい（ミックスホームルーム）。通常授業はみんなで一緒に学び、専門授業は分かれて授業を受けるのはどうか。違う学科の生徒から意見がもらえる環境があるとよい。
- ・長野県の県立高校にはスポーツ特待生制度がない。授業内容だけで学校を考えていくという時代ではないので、多くの子供達に入学してもらうにはスポーツを活かすような発想も必要。
- ・他所から人を集めるためには、特待生制度は必要。どんなスポーツでも良いので話題になるような取組みをすれば、生徒は集まる可能性がある。

【その他】

- ・3校が統合しても人口減少傾向が続く限り入学希望者は増えない。新校や3校のイメージアップを図る必要がある。ここでしか学べないことを情報発信していった方がよい。
- ・3校の公開授業を視察したが、今の学習環境は劣悪すぎる。学習環境を早く改善してあげたい。
- ・施設やトイレがきれいな学校が人気なので、その整備も必要。
- ・福井県立坂井高等学校の校長先生が農・工・商・家庭科がうまくいくための話をしてくれた。その話を聞いてから学びのイメージを作るのはいいかがか。非常に苦労されて専門性を担保しながら、うまく融合した学校になっている。

○座長提案

今回の懇話会までに、これまでの懇話会で出された意見を整理し、学びのイメージのたたき台を事務局に作成していただきたい。それを基に、より具体的に学校像や生徒像について意見交換を進めていきたい。

その他

【次回懇話会】

・日時 令和7年4月頃（予定） ・会場（調整中） ・内容 新校の学びのイメージに係る意見交換

第6回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

学びのイメージ 検討手順

学びのイメージ
完成

新しい学校の形

- ・設置課程、学科
- ・活用する校地、校舎
- ・想定する募集学級数
- ・卒業後の進路保障 など

新しい学校の中身

学びのイメージ策定（第8回～）

- ・特色あるカリキュラム
- ・学びの融合
- ・魅力づくり など

目指す学校像
育てたい生徒像

教育方針、学びの柱（第4回～第7回）

- ・どのような学校にしたいか
- ・どんなことを学んでみたいか

懇話会の趣旨説明（第1回）
全国の先行事例の講演（第2回）
3校の学校・学びの紹介（第3回）

共通理解



「安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会」のスケジュール（案）

高校再編推進室

年度	月日	懇話会	内 容
令和5年度	1月15日	第1回	【共通理解①】 ・懇話会の趣旨説明
令和6年度	5月24日	第2回	【共通理解②】 ・全国の先行事例の講演 （鳴門教育大学 特命教授 藤村裕一 様） ・グループワークによる意見交換
	7月19日	第3回	【共通理解③】 ・生徒による学校・学びの紹介 ・全体での意見交換
	11月19日	第4回	【目指す学校像・育てたい生徒像①】 ・公開授業の報告 ・地域・産業界からの提言① ・全体での意見交換
	1月20日	第5回	【目指す学校像・育てたい生徒像②】 ・地域・産業界からの提言② ・全体での意見交換
令和7年度	5月19日	第6回	【目指す学校像・育てたい生徒像③】 ・地域・産業界からの提言③ ・これまでの意見交換からの学びのイメージ ・グループワークによる意見交換
	7月予定	第7回	【目指す学校像・育てたい生徒像④】 ・前回の学びのイメージ意見交換 ・先行事例の講演 （福井県立坂井高等学校 校長 清水一広 様）
	9月予定	第8回	【学校のイメージ策定①】 ・学びのイメージ（原案）意見交換 ・具体的な学びの議論（特色、融合、魅力）
	11月予定	第9回	【学校のイメージ策定②】 ・具体的な学びの議論（新しい学校の中身）
	1月予定	第10回	【学校のイメージ策定③】 ・具体的な学びの議論（新しい学校の中身）

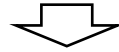
先進事例の
視察・報告

令和8年度

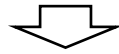
進捗状況に
応じて開催

＜意見交換項目＞

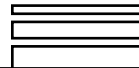
- 学校像、生徒像、新校の学び
- 設置課程、学科
- 活用する校地・校舎
- 募集開始年度
- 募集学級数 など



**教育委員会定例会で
再編整備基本計画を決定**

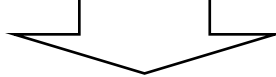


統合事件案を県議会で同意



新校準備委員会を中心に 校名、学校運営、地域協働、進路、生徒会、校歌・校章など細部にわたり検討 ⇒ 懇話会で意見交換

議会同意後、新校開校まで随時、年3～4回程度開催予定



新校開校

これまでに出了された意見のまとめ（第5回懇話会終了時）

	育てたい生徒像	目指す学校像	学び・地域連携
旧第11通学区高等学校教育懇話会 意見・要望書(R3.12月) (総合技術高校に関する記述を抜粋)	・即戦力となる専門性の高い人材 ・地元の中小企業のビジネスパートナーが世界に広がる中でイベラルアーツ（幅広い教養）が大切 ・6次産業に対応した専門分野の枠を越えた汎用的・多面的な職業能力の育成	・高校入学後に学びながら学科を決めていけるような柔軟なシステムも魅力的	・地域人材や地域資源を最大限活用できる環境を整備 ・コンソーシアムや協議会を設けることで横のつながりを強化 ・コミュニティ・スクールの導入 ・コーディネーターや外部人材の登用 ・学科が連携して行う地域協働学習
大北地域における高等学校の将来を考 える協議会 意見・提案書(R3.12月) (総合技術高校に関する記述を抜粋)	・多くのさまざまな考えに触れて、実体験・実経験する中から、多面的に物事を捉えられる力、新たな価値を創造する力 ・将来地域を担う人材	・地域が一体となった学校づくりや社会に開かれた教育課程	・生徒、教職員、保護者、同窓会、教育機関、企業・団体などが協働した学び合い ・地域に根差した学び
再編・整備計画 【三次】(R5.1月)	・DX等に対応するデジタル系の学びを共通の核として、Society5.0に必要なイノベーションを起こすことができる産業人の育成	・学科の基礎的な専門性を身に付けるとともに、学科を横断した科目を学ぶことなどにより、これからの時代に必要な汎用的・多面的職業能力を育成 ・「総合選択制（他学科の科目を選択したり、他学科に転科することが可能なシステム）」を導入	・地元自治体や地域の企業等との共学共創プラットフォームを構築し、再編対象校が培ってきたノウハウや各地域の資源を最大限活用した探究活動や課題研究を実践の活用
第1回懇話会 (R6.1月) 趣旨説明	・農工商を学ぶことで予測できない未来に対応できる人材	・学科同士の交流 ・県立高専の設置 ・高等学校専攻科の設置	・GX(グリーン・トランスフォーメーション)、SX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)という言葉の意味からも今後農業・工業・商業の全ての学びが必要になる
第2回懇話会 (R6.5月) 全国の先行事例の講演 グループディスカッション	講演会 要旨		
	・「問い」を立てる力 ・主体的に行動する力や新たな価値を創造する力 ・情報スキルや創造力、批判的思考力	・Society 5.0やAIの発展に対応する人材育成 ・予測困難な「VUCAワールド」に対応するための教育 ・人口減少と生産年齢人口の減少に対応するため、労働生産性を向上させる教育 ・自律的に問題を発見・解決する力を育成する教育	・学びの環境を整えることが重要で、黒板をなくし、タブレットや電子黒板を活用する教室設計 ・机を前向きに配置しない、グループや個人での自由な学び
第3回懇話会 (R6.7月) 3校の学校・学びの紹介	グループディスカッションやアンケートでの意見		
	・産業界は元気があり問題解決ができる生徒を求めている ・高校生が新たな地域の活性化につながるが良い ・指示待ちではなく何でも自分から吸収しようとする意欲がある人間	・生徒の自由な発想や考えを大切にした学校づくり ・自分から学びに行ける学校 ・地域の産業や商品作りを通じた農工商3科を学べる学校 ・地域で働きたい子どもたちの期待に応える学校 ・探究に全力を注ぐ学校、ものづくりを中心とした新しい学校 ・農業×工業も必要、幅広い学びのための総合技術高校 ・総合技術高校は専門分野だけでなく、他分野の知識を持った産業人を育てる学校とされているが、3年間で多くの知識を習得した人材を育成することは難しい	・6次産業は興味深く、農工商が同時に学べる環境は将来のためにも良い ・普通高校にはない、未来を見通せる環境 ・生徒が夢中になれる学び ・3つの学校を1つにするだけでなく、新しい発想で考える ・これまで長い時間を掛けて築きあげられてきた高校専門教育も大切に
第4回懇話会 (R6.11月) 公開授業視察・報告 地域・産業界からの提言①	地域・産業界からの提言①		
	・安曇野の良い所を考えて安曇野市を元気にしてくれる生徒 ・コミュニケーション能力や明るさ、熱意を持ち、地域に貢献できる生徒 ・企業の収益性を高めてくれる人（開発・チャレンジ精神）とその人を助ける人（継続性・コミュニケーション）	・それぞれの専門性を残し、好きなことを突き詰めてやることができる学校 ・人間性をより高められるような学校 ・農業・商業・工業の各高校の特性を活かし、安曇野の魅力を最大限に引き出すことができる「地域に根ざした総合学習の場」となる学校	・知識を詰め込むのではなく、実践を通じて学び、安曇野の大自然を活用しながら探究をとおして、安曇野の地域を守り、地球を守るというSDGsにつなげる ・総合的な農業を柱とした総合的な学び ・企業内学園のような地域内学園として生徒を支援する ・社会に出る、企業に入るということを学ぶ機会を作る ・安曇野の新たな魅力を創出し、地域の未来を担う人材を育成するために、学校と共に力を合わせていきたい
第5回懇話会 (R7.1月) 地域・産業界からの提言②	懇話会およびアンケートで出された意見		
	・農業・工業・商業に精通した生徒 ・時間を守る生徒 ・地域の魅力を発信し、持続可能な社会の実現に向けて積極的に行動できる「地域の担い手」としての資質を持った生徒 ・「自分の言葉で考えや意見が出せる人」「なんでも興味を示せる人」「苦しいことがあっても乗り越えられる人」「表現力があって（学力ではない）教養があり、打たれ強い人」	・生徒の探究心を煽っていただけるような学校 ・専門分野について、時代に即した学びができ、将来にわたって学び続ける意欲や資質が育つような学校 ・少子高齢化、多文化共生そして地球温暖化が明らかな安曇野の未来を創る生徒を育成するために、もっと大きな集団で授業、生徒会活動、部活動をしていくことが重要 ・農工商や運動の核になる運動部の設置と人材配置を考えていくことも大切 ・農業高等専門学校や高等学校専攻科は本県には必要 ・デュアルシステムのような学びや産学共同開発、共同研究など実践的な体験ができる学校	・専門性を高めることもいろいろなる分野を融合していく力もどちらも必要 ・農業、工業、商業を学んだ子どもたちが協力して一つのプロジェクトに向かうような学び ・農業を基本とした学びの場、地域の課題の研究の場で農業技術と地域連携で心を育む教育 ・「企業と個人がつながる」「社会を学ぶ機会を早く作る」 ・農工商に係る安曇野の企業がネットワークを作り、就業体験やデュアルシステムなどの地域に開かれた教育課程やその先の学びの形を作っていくことが魅力づくりにつながる
第5回懇話会 (R7.1月) 地域・産業界からの提言②	地域・産業界からの提言②		
	・地域の即戦力となる生徒	・2年間の専門教育とインターンシップを通じて地域事業所との結びつきを強くし、出口保証が期待できる高等学校専攻科の設置 ・人口減少対策としても、地域の魅力を再発見して若者が地域に戻ってくるような学校	・工業だけでなく、農業や福祉分野でも協力をいただいているデュアルシステムを引き継ぎ、地域との繋がり強化していく ・教員の負担軽減のためにも地域連携コーディネーターを配置 ・県教委による協力事業者への助成
第5回懇話会 (R7.1月) 地域・産業界からの提言②	懇話会およびアンケートで出された意見		
	・何か1つ秀でたものを身につけてほしい ・地域課題を地域連携で研究し、失敗や挫折も学びとして経験しながら解決ができる人 ・地域貢献を志す人 ・自分らしさを発揮して自分から精一杯取り組む生徒	・新校の魅力は授業、部活動、学校行事、資格の4つがそろること ・全国募集ができるような魅力をもつ学校 ・生徒がやりたいたいことを支援して意欲を伸ばし、とことん探究ができる学校 ・自分の成長を実感しながら学んでいく学校 ・農工商が融合して学べるような相互乗り入れができる学校 ・地域の企業や団体と一緒に学び、一緒に実習ができる機会を担保してお互いWin-Winになる学校 ・スポーツや学業でも進学できる学校 ・魅力あるまちづくりをうたい、地域に根づいた教育をする ・大きな集団の中で農工商の生徒と一緒に学べるような学校 ・専門性の異なる生徒が授業や生徒会やクラブ活動などで一緒に活動できる学校 ・学科を考える上で男女比が偏らない学校にしたい ・思いやり、尊重、時に衝突の中で己の探究心を学ぶ学校 ・専門知識を学び地域で新しい社会を創造していく力を育む学校 ・特色ある教育（スポーツ強化等）、私学に負けない学校（設備等） ・専攻科を設置し、高度な専門技術者育成、大学編入、推薦入学、公務員養成、都会からの移住者の農業専門教育をする ・定時制について、夜間ではなく専用の校舎があれば昼間定時制で十分	・農工商だけではなくダイナミックな発想で学科を考える ・専門高校の魅力を伝えるためにも、地域に協力してもらいながら幼少期から高校と交流する機会を設ける ・入学後に学科間を行き来できるような柔軟なシステムの導入 ・他学科の生徒と一緒にのクラスにする（ミックスホームルーム） ・積極的な情報発信による学校のイメージアップやスポーツ特待生制度などで生徒募集をする ・新校で育った生徒を温かく迎えられる地域づくりを進める ・専門技術の習得や各種検定資格の取得は生徒の自信になるので農工商の専門性は基幹とすべき ・学科同士が課題を協力するカリキュラムの実施 ・地元会社とともに開発するような形態や地元住民と専門性から交流できる機会の実施

「これまでに出了た意見のまとめ」から 学びのキーワードを抽出

1 育てたい生徒像（こんな力がついたらいいな）

【引用元】

①旧第11通学区懇話会 ②大北地域協議会

③再編整備計画【三次】

①～⑤懇話会での意見 ④⑤地域・産業界からの提言

●専門性

- ・即戦力となる専門性の高い人材①
- ・何か1つ秀でたものを身につけてほしい⑤

●教養

- ・地元の中小企業のビジネスパートナーが世界に広がる中でリベラルアーツ（幅広い教養）が大切①
- ・農業・工業・商業に精通した生徒④
- ・「表現力があって（学力ではない）教養があり、打たれ強い人」④

●総合力

- ・6次産業に対応した専門分野の枠を越えた汎用的・多面的な職業能力の育成①
- ・多くのさまざまな考えに触れて、実体験・実経験する中から、多面的に物事を捉えられる力、新たな価値を創造する力⑧
- ・DX等に対応するデジタル系の学びを共通の核として、Society5.0に必要なイノベーションを起こすことができる産業人の育成③
- ・農工商を学ぶことで予測できない未来に対応できる人材①
- ・未来に必要な人材③
- ・企業の収益性を高めてくれる人（開発・チャレンジ精神）とその人を助ける人（継続性・コミュニケーション）④

●地域

- ・将来地域を担う人材⑧
- ・高校生が新たな地域の活性化につながると良い②
- ・安曇野の良い所を考えて安曇野市を元気にしてくれる生徒④
- ・地域の魅力を発信し、持続可能な社会の実現に向けて積極的に行動できる「地域の担い手」としての資質を持った生徒④
- ・地域の即戦力となる生徒⑤
- ・地域課題を地域連携で研究し、失敗や挫折も学びとして経験しながら解決ができる人⑤
- ・地域貢献を志す人⑤

●人間性

- ・産業界は元気があり問題解決ができる生徒を求めている②
- ・指示待ちではなく何でも自分から吸収しようとする意欲がある人間②
- ・何歳になっても好奇心を持ち、コミュニケーション能力の高い生徒③
- ・コミュニケーション能力や明るさ、熱意を持ち、地域に貢献できる生徒④
- ・「自分の言葉で考えや意見が出せる人」「なんでも興味を示せる人」「苦しいことがあっても乗り越えられる人」④
- ・自分らしさを発揮して自分から精一杯取り組む生徒⑤
- ・時間を守る生徒④

【育てたい生徒像のキーワード】

- ・地域で即戦力として活躍できる専門性の高い生徒
- ・一芸に秀でた能力
- ・幅広い教養（特に英語力）
- ・専門性の高い生徒
- ・コンピテンシー（資質・能力）やレジリエンス（精神的回復力）の育成
- ・6次産業に対応した汎用的・多面的な職業能力の育成
- ・実体験・実経験から多面的に物事を捉えられる力、価値を創造する力
- ・DXなどデジタルの学びを核としたイノベーションを起こせる
- ・チャレンジ精神、コミュニケーション能力
- ・高校生の活動で地域が活性化
- ・地域の魅力を発信して地域が元気になる
- ・高校卒業後に地元で就職してほしい
- ・地域課題の発見⇒地域連携で研究⇒地域貢献を志す（地域愛の涵養）
- ・元気がある
- ・主体性を持ち、積極的に問題解決に取り組む意欲の育成
- ・好奇心、コミュニケーション能力
- ・基本的生活習慣の定着

2 目指す学校像（こんな学校があったらいいな）

●こんな学校があったらいいな

- ・自分から学びに行ける学校②
- ・地域で働きたい子どもたちの期待に応える学校②
- ・生徒自身が自ら学んでみたいことにチャレンジできる学校③
- ・各校のしがらみにとらわれることなく、生徒が大いに成長すべき高校③
- ・生徒自ら学びたいと思える活気のある総合的な学校③
- ・社会人とはどういうものか、姿勢、行動等の教養にも力を入れた学校③
- ・楽しく実のある学びができる学校③
- ・人間性をより高められるような学校④
- ・少子高齢化、多文化共生そして地球沸騰化が明らかな安曇野の未来を創る生徒を育成するために、もっと大きな集団で授業、生徒会活動、部活動をしていくことが重要④
- ・新校の魅力は授業、部活動、学校行事、資格の4つがそろふこと⑤
- ・自分の成長を実感しながら学んでいく学校⑤
- ・専門性の異なる生徒が授業や生徒会やクラブ活動などで一緒に活動できる学校⑤
- ・思いやり、尊重、時に衝突の中で己の探究心を学ぶ学校⑤
- ・専門知識を学び地域で新しい社会を創造していく力を育む学校⑤
- ・特色ある教育(スポーツ強化等)、私学に負けない学校(設備等)⑤

●開かれた学校

- ・地域が一体となった学校づくりや社会に開かれた教育課程⑩
- ・農業・商業・工業の各高校の特性を活かし、安曇野の魅力を最大限に引き出すことができる「地域に根ざした総合学習の場」となる学校④
- ・人口減少対策としても、地域の魅力を再発見して若者が地域に戻ってくるような学校⑤
- ・地域の企業や団体と一緒に学び、一緒に実習ができる機会を担保してお互い Win-Win になる学校⑤
- ・魅力あるまちづくりをうたい、地域に根づいた教育をする⑤

●学科横断

- ・学科の基礎的な専門性を身に付けるとともに、学科を横断した科目を学ぶことなどにより、これからの時代に必要な汎用的・多面的職業能力を育成③
- ・学科同士の交流①
- ・地域の産業や商品作りを通じた農工商3科を学べる学校②
- ・農業×工業も必要、幅広い学びのための総合技術高校②
- ・総合技術高校は専門分野だけでなく、他分野の知識を持った産業人を育てる学校とされているが、3年間で多くの知識を習得した人材を育成することは難しい②
- ・農工商が融合して学べるような相互乗り入れができる学校⑤
- ・大きな集団の中で農工商の生徒と一緒に学べるような学校⑤

くくり募集

- ・高校入学後に学びながら学科を決めていけるような柔軟なシステムも魅力的④

●柔軟な教育課程

- ・「総合選択制（他学科の科目を選択したり、他学科に転科することが可能なシステム）」を導入③
- ・生徒の自由な発想や考えを大切にしたい学校づくり②

●探究

- ・探究に全力を注ぐ学校、ものづくりを中心とした新しい学校②
- ・生徒の探究心を煽っていけるような学校④
- ・生徒がやりたいことを支援して意欲を伸ばし、とことん探究ができる学校⑤

●専門性

- ・検定を多く取れる学校③
- ・長野県農業を担う人材育成の場が高校の段階から必要③
- ・それぞれの専門性を残し、好きなことを突き詰めてやることができる学校④
- ・専門分野について、時代に即した学びができ、将来にわたって学び続ける意欲や資質が育つような学校④

●デュアルシステム

- ・デュアルシステムのような学びや産学共同開発、共同研究など実践的な体験ができる学校④

●県立高専や高等学校専攻科の設置

- ・農業高等専門学校や高等学校専攻科は本県には必要④
- ・2年間の専門教育とインターンシップを通じて地域事業所との結びつきを強くし、出口保証が期待できる高等学校専攻科の設置⑤
- ・専攻科を設置し、高度な専門技術者育成、大学編入、推薦入学、公務員養成、都会からの移住者の農業専門教育をする⑤

●その他

- ・農工商や運動の核になる運動部の設置と人材配置を考えていくことも大切④
- ・全国募集ができるような魅力をもつ学校⑤
- ・スポーツや学業でも進学できる学校⑤
- ・学科を考える上で男女比が偏らない学校にしたい⑤
- ・定時制について、夜間ではなく専用の校舎があれば昼間定時制で十分⑤

【目指す学校像のキーワード】

- ・チャレンジできる学校
- ・活気のある学校
- ・社会人としての教養を身につけられる学校
- ・成長が実感できる学校
- ・切磋琢磨していく学校
- ・地域に根差した総合学習の場
- ・地域にも価値のある学校
- ・一緒に学び、研究できる地域の研究機関となる学校
- ・地域に根づいた教育
- ・地域の産業や商品作りを通じた農工商3科を学べる学校
- ・農工商が融合して学べるような相互乗り入れができる学校
- ・くくり募集（時代の変化に対応した入試制度）
- ・探究・ものづくりを中心とした学校
- ・資格・検定を多くとれる学校
- ・将来にわたって学び続ける資質が育つ学校
- ・デュアルシステムや産学協同研究ができる学校
- ・専攻科の設置（2年制、専門技術者育成、大学編入など）

3 学び・地域連携

●学び

- ・地域人材や地域資源を最大限活用できる環境を整備④
- ・生徒、教職員、保護者、同窓会、教育機関、企業・団体などが協働した学び合い⑧
- ・地域に根差した学び⑧
- ・GX(グリーントランスフォーメーション)、SX(サステナビリティトランスフォーメーション)という言葉の意味からも今後農業・工業・商業の全ての学びが必要になる①
- ・6次産業は興味深く、農工商が同時に学べる環境は将来のためにも良い②
- ・普通高校にはない、未来を見通せる環境②
- ・生徒が夢中になれる学び②
- ・3つの学校を1つにするだけでなく、新しい発想で考える②
- ・これまで長い時間を掛けて築きあげられてきた高校専門教育も大切にする②
- ・学科・学年関係なくゼミに所属したゼミ活動③
- ・農業・工業・商業の魅力を、地元高校生が発見し6次産業につなげる③
- ・専門性は会社で引き続き教育するので基礎を教え込んでほしい③
- ・総合的な農業を柱とした総合的な学び④
- ・社会に出る、企業に入るということを学ぶ機会を作る④
- ・専門性を高めることもいろいろな分野を融合していく力もどちらも必要④
- ・農業、工業、商業を学んだ子どもたちが協力して一つのプロジェクトに向かうような学び④
- ・農工商だけではなくダイナミックな発想で学科を考える⑤
- ・入学後に学科間を行き来できるような柔軟なシステムの導入⑤
- ・他学科の生徒と一緒にのクラスにする(ミックスホームルーム)⑤
- ・専門技術の習得や各種検定資格の取得は生徒の自信になるので農工商の専門性は基幹とすべき⑤
- ・学科同士が課題を協力するカリキュラムの実施⑤

●地域連携

- ・コンソーシアムや協議会を設けることで横のつながりを強化④
- ・コミュニティ・スクールの導入④
- ・コーディネーターや外部人材の登用④
- ・学科が連携して行う地域協働学習④
- ・地元自治体や地域の企業等との共学共創プラットフォームを構築し、再編対象校が培ってきたノウハウや各地域の資源を最大限活用した探究活動や課題研究を実践の活用⑤
- ・安曇野の大自然を農のテーマパークとして活用し、農工商を総合的に学ぶことで安曇野や地域を守

- り、地球を救う持続可能な開発目標（SDGs）につなげる③
- ・ 高等学校段階で地域を知り、愛着を持つ機会を創出する③
- ・ 知識を詰め込むのではなく、実践を通じて学び、安曇野の大自然を活用しながら探究をととして、安曇野の地域を守り、地球を守るという SDGs につなげる④
- ・ 企業内学園のような地域内学園として生徒を支援する④
- ・ 安曇野の新たな魅力を創出し、地域の未来を担う人材を育成するために、学校と共に力を合わせていきたい④
- ・ 「企業と個人がつながる」「社会を学ぶ機会を早く作る」④
- ・ 農工商に係る安曇野の企業がネットワークを作り、就業体験やデュアルシステムなどの地域に開かれた教育課程やその先の学びの形を作っていくことが魅力づくりにつながる④
- ・ 工業だけでなく、農業や福祉分野でも協力をいただいているデュアルシステムを引き継ぎ、地域との繋がりを強化していく⑤
- ・ 教員の負担軽減のためにも地域連携コーディネーターを配置⑤
- ・ 県教委による協力事業者への助成⑤
- ・ 専門高校の魅力を伝えるためにも、地域に協力してもらいながら幼少期から高校と交流する機会を設ける⑤
- ・ 新校で育った生徒を温かく迎えらる地域づくりを進める⑤
- ・ 地元会社とともに開発するような形態や地元住民と専門性から交流できる機会の実施⑤
- その他
- ・ 積極的な情報発信による学校のイメージアップやスポーツ特待生制度などで生徒募集をする⑤

【学び・地域連携のキーワード】

- ・ 学校・地域・企業と協働した学び
- ・ 6次産業や農工商を融合した学び
- ・ 専門教育も大切にする
- ・ 学年・学科を越えた活動
- ・ 基礎教育の充実
- ・ 社会経験を積む機会を得る
- ・ 農工商にとらわれないダイナミックな発想の学科
- ・ 学科を移動できる柔軟な教育カリキュラム
- ・ ミックスホームルーム
- ・ 外部人材の活用
- ・ 共学共創コンソーシアムの設置
- ・ 安曇野に密着した学び
- ・ 産業界からの生徒支援（実習機会・資金支援）
- ・ 県からの協力事業者への助成
- ・ 生徒募集方法の特色化

【用語解説】

6次産業 （6次産業化）	一次産業としての農林漁業と、二次産業としての製造業、三次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組
コンピテンシー	優れた成果を創出する個人の能力・行動特性のこと
レジリエンス	逆境を乗り越える力、しなやかな心
デュアルシステム	企業での実習と学校での講義等の教育を組合せて実施することにより若者を一人前の職業人に育てる仕組み
コンソーシアム	共通の目的を持った企業や組織が集まり、資源を持ち寄って協力し合う団体

これまでの懇話会の意見集約

【学びのイメージ】

- ・「安曇野が学びのフィールド」
- ・「安曇野産業の探究拠点」
- ・「協働的に問題解決に粘り強く挑戦する人物の育成」
- ・「地域連携をとおして社会貢献のできる人物の育成」
- ・「主体的に元気よく何事にも前向きに取り組める人物の育成」

○育てたい生徒像

1. 専門性の高い生徒
 - ・地域で即戦力として活躍できる専門知識と技術を持つ。
 - ・一芸に秀でた能力を持ち、幅広い教養（特に英語力）を備える。
 - ・コンピテンシー（資質・能力）やレジリエンス（精神的回復力）を育成し、チャレンジ精神とコミュニケーション能力を持つ。
 - ・DXなどデジタルの学びを核としたイノベーションを起こせる力を持つ。
2. 多面的な職業能力を持つ生徒
 - ・6次産業に対応した汎用的・多面的な職業能力を育成し、実体験・実経験から多面的に物事を捉えられる力、価値を創造する力を持つ。
 - ・地域課題の発見➡地域連携で研究➡地域貢献を志す（地域愛の涵養）を実践する。
3. 地域に貢献する生徒
 - ・高校生の活動で地域が活性化し、地域の魅力を発信して地域が元気になる。

○目指す学校像

1. チャレンジできる学校
 - ・活気があり、主体性を持ち、積極的に問題解決に取り組む意欲を育成する。
 - ・好奇心とコミュニケーション能力を育て、基本的生活習慣の定着を図る。
2. 地域に根差した学校
 - ・地域に根差した総合学習の場を提供し、地域にも価値のある学校。
 - ・一緒に学び、研究できる地域の研究機関となる学校。
3. 多面的な学びを提供する学校
 - ・農工商の専門科目を学ぶことができ、さらに未来を見据えた農工商が融合した学びができる。
 - ・探究やものづくりを中心とした学校で、資格・検定を多く取得できる。
 - ・デュアルシステムや産学協同研究ができる学校。
4. 柔軟な教育カリキュラムを持つ学校
 - ・学科を移動できる柔軟な教育カリキュラムを提供し、ミックスホームルームや外部人材の活用を行う。
 - ・共学共創コンソーシアムの設置や、安曇野に密着した学びを提供する。
5. 産業界との連携を強化する学校
 - ・産業界からの生徒支援を受ける。
 - ・特色あるクラブ活動の実践。
 - ・生徒募集方法の検討、専攻科の設置。

第6回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会

グループワークについて

1. グループワークの概要

(1) グループワークの内容

①修正・加筆の洗い出し

資料 12 ページ「これまでの懇話会の意見集約」を読んで、「育てたい生徒像」や「目指す学校像」、「学びのイメージ」について良いと感じた部分、加えた方がよい内容、言い方を変えた方がよい部分などを挙げてもらう

②具体的なアイデア出し

これまでの意見を実際の実現するための具体的な手立て(学びや仕組み、設備等)について、それぞれの立場や視点でアイデアを出してもらう

(例)「〇〇すれば、△△できそう」など

➡出された意見を事務局でまとめ、学びのイメージの「育てたい生徒像」や「目指す学校像」の原案を次回懇話会で提案する

(2) 進め方(時間は目安)

ア 資料・注意事項等の説明 <3分/高橋>

イ 各グループでの意見交換 <40分程度>

・「これまでの懇話会の意見集約」について意見交換

①修正・加筆の洗い出し(20分)

②具体的なアイデア探し(20分)

ウ 全体共有<5分>

・各グループからの発表(記録係が共有)

2. グループ分け: 配席図参照

Aグループ: 同窓会・PTA

Bグループ: 自治体・生徒会

Cグループ: 産業界と地域のみなさま

Dグループ: 3校の教職員と地域振興局

Eグループ: 義務・特別支援・高校の校長先生

3. お願い(4つのルール)

○どのような意見も尊重(発言は端的に短く/他の人の意見を否定しない)

○自由に発言(突拍子のない意見も可)

○質より量を重視(良い意見を出さなければと思わない)

○他の人の意見に便乗も可(他の人の意見を発展させる)

4. 参考資料

・「これまでに出了された意見のまとめ」(別紙A3印刷)

・資料8~11ページ:「これまでに出了された意見のまとめ」から学びのキーワードを抽出

・資料12ページ:これまでの懇話会の意見集約